

**横浜市指定管理者第三者評価  
横浜市青少年育成センター  
評価シート**

**横浜市青少年施設指定管理者選定評価委員会**

## 目次

1. 総評 .....	3
2. 基本方針 .....	5
(1) 施設管理運営の基本的な考え方 .....	5
(2) 施設管理運営の5年間の目標と計画方針 .....	7
3. 事業計画 .....	9
(1) 事業実施に関する基本的な考え方 .....	9
(2) 計画的な事業展開について .....	11
(3) 利用者サービスの向上について .....	14
(4) 地域や他機関等との連携・協働について .....	16
4. 管理運営 .....	18
(1) 運営体制に関する基本的な考え方について .....	18
(2) 収支計画について .....	20
(3) 施設の維持管理について .....	21
(4) モニタリングの実施について .....	22

### <評価の考え方>

- A: 提案書以上の成果を挙げている
- B: 提案書どおりの成果を挙げている
- C: 提案書の成果が挙がっていない

## 1. 総評

指定管理者記入欄	選定評価委員会記入欄												
<p><b>【取組事項等】</b>  <b>&lt;取り組みと成果&gt;</b>                      子ども・子育て支援事業計画（平成 27～31 年度）に掲げられた基本施策を踏まえ、「青少年育成活動の拠点」としての役割を果たすため、青少年を支える人材の育成や課題解決に向けて相談し支える関係性を築くことを重点的に取り組みました。</p> <p><b>①青少年育成者・団体間のネットワーク形成</b>                      青少年を支援する 60 団体以上が一堂に会する「横浜子ども・青少年に関わる活動関係者の大交流会」では、活動報告やテーマ別の話し合いなどを通じて、市域で青少年に関わる個人・団体の分野を超えた、支援者相互に相談し支え合えるネットワーク形成を推進しています。</p> <p>「よこはまユースゼミ」では講座研修の参加者ニーズに基づき、継続的な勉強会を行い支援者同士が気軽に意見交換・情報共有できる機会を提供し、ネットワーク形成のきっかけ作りを行いました。</p> <p><b>②青少年育成活動を充実するための研修等の実施</b>                      ステップアップを目指す「コーチング研修」や「コミュニケーションスキル研修」、社会的に関心が高い「発達障がい理解」や「ひきこもり」等をテーマとした研修を実施しました。青少年を取り巻く社会の変化に対応した研修は、定員を上回る参加者がありました。</p> <p>また、青少年育成の動向を捉え、新たなニーズに応え、広く情報発信することで、育成センターの中間支援機能を大いに発揮することができました。</p> <p><b>&lt;課題と今後の展開&gt;</b>                      関内ホールの工事に伴う一時移転(平成 29 年 12 月～平成 30 年 9 月)の影響で利用団体、稼働率が減少しています。平成 30 年 10 月からの関内ホールでの運営再開に向けた利用者回復策として、運営再開後の講座研修計画の再構築を進めています。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>27 年度</th> <th>28 年度</th> <th>29 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>団体数</td> <td>5,143 件</td> <td>5,033 件</td> <td>3,408 件</td> </tr> <tr> <td>稼働率</td> <td>75.7%</td> <td>74.3%</td> <td>62.1%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	27 年度	28 年度	29 年度	団体数	5,143 件	5,033 件	3,408 件	稼働率	75.7%	74.3%	62.1%	<p><b>【現状の評価】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 28 年度は、提案書に沿って着実に事業が進められ、施設稼働率/利用件数がほぼ目標に達したものの、平成 29 年度は関内ホールの工事に伴う一時移転により、制約条件がある中での施設運営となったことなどから、施設稼働率/利用件数や、収入が計画値を下回る結果となっています。</li> <li>・制約条件がある中でも、子ども・子育て支援事業計画に掲げられた基本政策を踏まえ、「青少年を支える人材の拡充」「ネットワークの推進強化」「青少年育成活動拠点機能の充実」に向け、できる限り青少年育成拠点としての機能の維持・強化に努めています。</li> <li>・「発達障がい理解」といったテーマ型の研修や、「ホワイトボードミーティング」等の新たな視点の研修の導入など、講座内容の固定化を回避するための創意工夫が見られます。</li> <li>・「横浜子ども・青少年に関わる活動関係者の大交流会」や「ユースゼミ」など、分野を超えて支援者相互が相談し合えるネットワークを形成するための取組をはじめている点は評価できます。しかし、まだ部分的にきっかけが作られた状況であり、組織立った活動になっていない地域における中高生や大学生なども巻き込んだ取組は不十分です。運営再開後の講座研修計画では、もっとこれらの層を対象とした取組にしてほしい。</li> <li>・横浜市の「青少年育成活動の拠点」としての役割を果たすために、積極的に様々な取組をしていることを評価します。特に青少年を支える人材や団体の育成と他機関の連携、協働の要になるための事業を幅広く展開されていることを評価します。</li> </ul>
年度	27 年度	28 年度	29 年度										
団体数	5,143 件	5,033 件	3,408 件										
稼働率	75.7%	74.3%	62.1%										

【改善に向けた提案・意見】

- ・提案書で5年間の達成目標の1つとして掲げられている「青少年活動の充実のための相談・情報提供」について、相談件数が、2年度間連続して目標値の半数以下となっています。青少年指導者や育成者、団体の活動の支援において、相談は重要な役割を担うことから、一次相談窓口としての対応のあり方や広報について見直しを図ることが望まれます。
- ・青少年を支える人材の拡充に向けたユースコーディネーター認定制度については、実験的な研修を実施するなど検討が進められているものの、まだ過渡期にあります。アンケート結果を見ると、横浜での認定制度に対する一定のニーズが存在すると考えられることから、慎重を要するものの、遅くない時期の制度発足が望まれます。
- ・相談対応事例集は、青少年育成拠点である育成センターのノウハウの波及と、潜在的な相談者の掘り起こしに有効な手段になると考えられることから、効果的に活用されるものとなるよう、項目の整理や編集方法などを検討していくことが望まれます。
- ・関内ホールでの運営再開にあたっては、指定管理期間前半の事業成果をベースとしつつも、減少した利用者数の回復を図るべく、心機一転のリニューアルオープンといったイメージを打ち出しながら、効果的な媒体を使って広報を行い、「この機会に足を運ぼう」という動機付けを図っていくことが期待されます。
- ・運営再開を機に新たな利用者、利用団体獲得を目指した事業の展開や従来の機能に加え、交流スペース等新たな施設の姿にふさわしいセンター機能を充実されることが望まれます。
- ・運営再開後に予想される利用団体の変化については、新たな展開を図る契機と前向きに受け止めて対応していただきたい。

## 2. 基本方針

### (1) 施設管理運営の基本的な考え方 (様式7)

評価項目・評価基準		指定管理者記入欄			選定評価委員会記入欄		
		評価 (A・B・C)			評価 (A・B・C)		
ア	役割、課題に対する考え方	A	Ⓑ	C	A	Ⓑ	C
	横浜市の青少年育成施策の現状や課題を踏まえ、提案書で示す当該施設の役割を果たしている						
イ	管理運営に関する考え方	Ⓐ	B	C	Ⓐ	B	C
	管理運営基本方針に沿って、施設が管理運営されている						
指定管理者記入欄				選定評価委員会記入欄			
<p><b>【評価の根拠】</b></p> <p>ア：青少年育成に携わる個人・団体が市域から集まり、講座研修等を通してつながり、ネットワーク形成が促進されています。関内ホールの工事に伴う一時移転に伴い、活動支援機能(作業スペース、情報コーナー等)や音楽スタジオが制限されている現状があります。</p> <p>イ：社会的関心の高いテーマを講座研修に取り上げることで、青少年を支える人材のすそ野を広げ、新たな課題に対応できる人材育成に取り組むことで、青少年育成活動の拡充に寄与することができています。また、施設利用者へのアンケート調査を行い、利用者ニーズの把握に努め、利用者の特性に合わせた活動の支援を行っています。</p>				<p><b>【現状の評価】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・横浜市の総合計画や横浜市子ども・子育て支援事業計画などの青少年育成施策の現状や課題を踏まえ、提案書で示す施設の役割を果たしています。また、管理運営基本方針に沿って、施設が管理運営されています。</li> <li>・青少年育成に携わる個人や団体、地域や行政を繋ぐための様々な取組に力を注いでいることを評価します。</li> <li>・講座・研修は、社会的に関心の高い内容が多く、近年の青少年を取り巻く現状や課題に対応できる人材育成のための努力をされています。</li> <li>・青少年および青少年指導者・育成者、団体の支援において重要となる窓口相談については、相談件数の減少に歯止めをかけるべく、相談体制のあり方や、広報の仕方などを根本的に見直すことが望まれます。</li> <li>・当団体は指定管理が第4期目となっていることなどから、その間の青少年を取り巻く環境を今一度見直すとともに、青少年育成の基本理念を再検証して事業に反映させ、今の時代に必要とされている青少年の育ちの支援を牽引する「一歩先を行く機能」が期待されます。</li> </ul>			

## 【今後予定している取組等】

- 1 引き続き、社会的課題に対する講座研修を実施し青少年育成に携わる人材育成に努めます。
- 2 青少年を支えるネットワークのすそ野を広げるために、地域での「居場所」支援に取り組む「子ども食堂」や「放課後等デイサービス」など地域で急増する活動団体等にも情報や講座研修を届け、新しい関係性の構築に努めます。
- 3 子ども会や自治会での青少年活動が減少傾向にあります。地域における青少年活動の活性化を図れるように団体の特性に応じた施設貸出や情報提供、ニーズに応じたスキル研修等を通じた団体支援に取り組みます。

## 【改善に向けた提案・意見】

- ・放課後等デイサービスの職員の質向上のために、放課後等デイサービスの団体に情報や講座・研修を届けることは、引き続き積極的に行っていただきたい。
- ・青少年を支えるネットワークのすそ野を広げることは、市域全体を把握している育成センターの大切な使命であり、そのためにコーディネート機能を発揮してほしい。
- ・市内の青少年育成団体を牽引するリーダー役として、改めて今の時代の青少年の育ちを考え、そのために必要な対応策を検討することが望まれます。近年は大人が整えた環境の中に、子どもが置かれることが多くなり、本来子どもの持っている自発的な力を引出す場面が減少している傾向があるように思えます。時代環境に合わせるだけでなく、時代環境の中で損なわれている危険性のあるものへの気付きや、子どもの力の引出しなどについても、リード役となっていくことを期待します。
- ・今地域では、子ども会がなくなるなどの問題が拡大していますが、その一方で、子ども会の後の中高生で活動が切れてしまうというところに注目して、自治会等の中に青年部や青少年部を作ったり、地域防災で中学生の役割を高めたりといった取組が増えつつあります。しかしながら、大人が部長を務めてしまったり、指示でやってもらうかたちをとったりしているため、うまく展開していないケースも多く、従来の指導といった考え方ではうまくいかないことも事実です。地域の青少年が自主性をもって生き生きと地域活動が展開できるよう、意識啓発や研修、情報提供などをしていくことが、これまで以上に必要とされているのではないのでしょうか。

(2) 施設管理運営の5年間の目標と計画方針(様式8)

評価項目・評価基準		指定管理者記入欄			選定評価委員会記入欄		
		評価(A・B・C)			評価(A・B・C)		
ア	目標について	A	Ⓑ	C	A	Ⓑ	C
	指定期間の達成目標に対し、順調に進んでいる						
イ	計画方針について	Ⓐ	B	C	Ⓐ	B	C
	計画方針に沿って、施設が管理運営されている						
指定管理者記入欄				選定評価委員会記入欄			
<p><b>【評価の根拠】</b></p> <p>ア：青少年に関する「相談対応事例集」の作成、課題やニーズを把握し、反映したネットワークの立上げは目標通り順調に進んでいます。なお、活動拠点機能の充実では、指定管理第4期初年度は、講座参加者885人、稼働率74.3%と順調な運営でしたが、29年度は一時移転の影響により参加者、稼働率は減少しています。</p> <p>イ：青少年に関わる人材のすそ野を広げるため、社会福祉協議会などの他分野団体と連携して研修講座等の情報を相互提供しています。また、講座研修の参加者には受講者カードを配布し、講座研修のニーズや活動における課題等、参加者の声の把握に努めています。また、職員が多様な相談にも応じられるよう青少年相談センター等の専門研修への参加や相談事例の検証を行うなど職員のスキルアップに努めています。</p>				<p><b>【現状の評価】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・青少年育成活動の拠点機能充実の目標に対しては、施設稼働率/利用件数について、平成28年度はほぼ目標水準に達したものの、平成29年度は一時移転の影響によって目標を下回る結果となっています。</li> <li>・青少年を支える人材の拡充、ネットワークの推進強化、青少年育成活動拠点機能の充実に向けて、着実に取組みが進められています。</li> <li>・ユースコーディネーター養成の目標に対しては、平成28年度の研修参加延べ人数95人、平成29年度の研修参加延べ人数84人と順調に進捗しています。</li> <li>・ネットワークの推進強化の目標に関しては、相談対応事例集の作成が進められていますが、有効に活用されるものにするための検討はこれからの課題となっています。ネットワークの立上げについては、大交流会等を通じて、団体間のネットワーク支援が行われています。</li> <li>・施設機材や物品の充実については、関内ホールでの運営再開後に法人事務所の空きスペースに印刷機を設置し、作業スペース等の充実を図る計画となっており、機能の充実が目指されています。</li> <li>・施設の管理運営について、計画方針に沿って行われています。</li> </ul>			

**【今後予定している取組等】**

- 1 「青少年」をキーワードに様々な研修ニーズや相談が増えています。「教育」「福祉」「医療」「雇用」など多様な分野の研修ニーズに対応するため、研修の企画や情報提供等において、他分野の活動団体とも積極的に連携を図り、協力体制を構築しています。
- 2 施設再開後の運営に関する広報を計画的に進め、利用者の回復と新規利用者の拡充を図り、「育成センターでつながる」をモットーに、施設がネットワークのハブとして役割を果たせるよう各機能の強化に努めます。

**【改善に向けた提案、意見】**

- ・ユースコーディネーター養成については、認定制度を目指したユースワーカー研修との関連性を整理しながら、青少年育成に熱意を持つ人が、自信を持って対応することができるよう、認定制度発足の検討を進めてください。
- ・大交流会など、ネットワークづくりの場は、集まって情報交換、意見交換をすることから一歩踏み込み、青少年育成に関する参加者の気付きの場として、それらを各団体に持ち帰って還元できるような仕組みも検討していくことが望まれます。
- ・これまでのセンター機能としての実績である相談対応事例集から、一次相談窓口としての機能とテーマ・課題ごとの相談等を整理し、職員内で情報共有することで、育成センターとしてのコーディネート機能のアップにつなげるなど、相談対応事例集の効果的な活用を期待します。
- ・相談対応事例集の作成・分析で何が分かり、相談事業における新たな対応方針が何なのかなどがあまりよく分かっていない点が気になります。今の青少年については、電話での相談対応にとどまらず、多様な情報提供、情報発信の仕組みを駆使する必要性が高まっていると考えられ、相談事業のあり方そのものを見直すなどの必要があります。
- ・講座・研修の参加者に配布している受講者カードから読み取れるニーズや課題を丁寧に分析して、青少年が抱える問題や課題を、支援する人たちが活かせるための研修を充実させていただきたい。

### 3. 事業計画

#### (1) 事業実施に関する基本的な考え方（様式9）

評価項目・評価基準		指定管理者記入欄			選定評価委員会記入欄		
		評価 (A・B・C)			評価 (A・B・C)		
青少年育成及び青少年にかかわる人材育成のための考え方や方針について	事業計画に基づき、青少年育成及び青少年にかかわる人材育成に取り組んでいる	Ⓐ	B	C	Ⓐ	B	C
指定管理者記入欄				選定評価委員会記入欄			
<p><b>【評価の根拠】</b></p> <p>多様な視点からじっくり学ぶ連続講座、入門・実践・経験者など対象別の講座、取組みを充実するためのステップアップ講座、現在の青少年を取り巻く課題を考えるシンポジウムなど、参加者の学びたい内容に合わせた研修体系を展開しています。</p> <p>特に青少年と直接関わる現場を持ち、課題に気づき、必要な支援につなぐ「ユースコーディネーター」の育成に重点的に取り組み、地域と機関をつなぐ中間的な人材育成に力を入れています。</p> <p>また、参加者同士においても日常的に“支えあえる関係”ができるよう、研修中や終了後には職員が積極的にマッチメーカーを務めネットワークの促進に努めています。</p> <p>講師選定においては、実践者を積極的に活用し、参加者と講師の間で気軽に相談・助言が行われる関係づくりを目指しています。</p>				<p><b>【現状の評価】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業計画に基づき、青少年育成及び青少年にかかわる人材育成に取り組んでいます。</li> <li>・現場での実践と研修機能をつなぎ、戦略的に人材育成をしていることが高く評価できます。</li> <li>・中間的な人材育成において力点を置いている、ユースコーディネーターの認定制度に向けた取組が行われているものの、まだ過渡期にあります。</li> <li>・人材育成のために、多様なテーマの講座・研修が実施されるとともに、大交流会などを通じたネットワークづくりが進められています。</li> <li>・講座内容の固定化を回避するために、他団体等が実施する講座・研修の情報収集により新たな視点からの研修の展開や、講師の入れ替えを行うなどの創意工夫が見られます。</li> <li>・青少年を取り巻く環境が変化する中で、青少年の健全育成を牽引していく団体として、今の時代に重要な「育ち」という根本部分の検討を図り、今後の事業に反映させていくことが期待されます。</li> </ul>			

<p><b>【今後予定している取組等】</b></p> <p>1 引き続き、講座研修を通じて参加者同士の支えあえる関係性が更に深まるよう“つなぐ”ことを意識した講座研修を運営していきます。</p> <p>2 「入門・実践・経験者」といった参加者のレベル（縦軸）だけでなく、「理解・スキル・ネットワーク」といったカテゴリ（横軸）を明確にして、参加しやすい研修体系とします。</p> <p>3 講座研修は、個別の支援にかかわる内容に重点を当てて取り組んできました。今後は、加えて団体活動の円滑な運営や継続につながるような講座研修の充実を図っていきます。</p>	<p><b>【改善に向けた提案・意見】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ユースコーディネーター認定制度の確立・人材育成は、青少年を支える社会資源の拡充に繋がると思います。質の高い横浜市のユースコーディネーター育成を目指した認定制度は、慎重を要するものの、遅くない時期の制度発足が望まれ、その成果に注目したいと考えています。</li> <li>・青少年の支援団体は、団体を継続していくための様々なノウハウを必要としています。団体が健全な活動を継続していくための運営・経営等の研修や、個々の団体の抱えている問題・課題への丁寧な相談援助も、積極的に行ってください。</li> <li>・人材育成やネットワークづくりなどの取組は着実に行われているものの、市内青少年育成団体を牽引するリーダー役として、改めて今の時代の青少年の育ちを考え、そのために必要な対応策を検討することが望まれます。</li> <li>・青少年及び支援者の人材育成において最も大事な点は、お客様扱いしないで青少年の主体性・自主性を尊重すること、やらされ感を払しょくするため、企画段階からの関わりをもってもらふことの2つです。実践・理解・スキル・ネットワークといった研修におけるカテゴリを組み立てる前に、常に上記の考え方を発信するのが重要だと思います。</li> </ul>
--	---

(2) 計画的な事業展開について (様式 10)

評価項目・評価基準		指定管理者記入欄			選定評価委員会記入欄		
		評価 (A・B・C)			評価 (A・B・C)		
ア	指定事業の実施計画について	A	Ⓑ	C	A	Ⓑ	C
	利用者ニーズ、地域や施設の特徴を踏まえ、指定事業の実施に取り組んでいる						
イ	自主事業計画の実施計画について	A	Ⓑ	C	A	Ⓑ	C
	自主事業の目的と効果を明確にし、計画的に取り組んでいる						
指定管理者記入欄				選定評価委員会記入欄			
<p>【評価の根拠】</p> <p>ア：市域からのアクセスの良さや「場」を持つメリットを活かし、青少年支援の人材や情報が集い交差する「場」として、以下の指定事業に取り組みました。</p> <p>&lt;青少年指導者・育成者の支援&gt;</p> <p>①青少年の居場所づくり講座 (連続講座)</p> <p>「基礎知識」「居場所見学」「子ども食堂講座」など</p> <p>②スキルアップ研修</p> <p>「発達障がい理解」「子どもとの信頼関係」など</p> <p>③ユースコーディネーター研修</p> <p>「不登校・ひきこもり」「虐待」「困難さ」をテーマに見相や県警等に講師を依頼して実施</p> <p>④認定制度に向けた取組</p> <p>京都市ユースサービス協会が主催する「ユースワーカー養成講習会」を参考に、ユース独自の認定制度をモデル実施</p> <p>⑤ユースシンポジウム</p> <p>「高校内居場所カフェ」の実践報告と討議</p> <p>⑥よこはまユースゼミ</p> <p>青少年をテーマとした少人数制の勉強会を実施</p> <p>⑦横浜子ども・青少年に関わる活動関係者の大交流会</p> <p>団体の活動や事例報告、テーマ別情報交換会の実施</p> <p>&lt;団体支援やネットワーク形成&gt;</p> <p>①団体活動の支援</p> <p>助成金等の情報提供、ローカーや活動物品の貸出</p> <p>②青少年育成に関する連絡会等の支援</p> <p>横浜少年五団体や居場所関係者等の連絡会を支援</p> <p>③団体と連携した講座の実施</p> <p>「おもしろ科学探検工房」「横浜 PTA 新聞研究会」</p>				<p>【現状の評価】</p> <p>・市域からのアクセスの良さや、「場」を持つメリットを活かし、指定事業の実施に着実に取り組んでいます。</p> <p>・ホームページの「相談・情報スポットのご案内」はとても分かりやすく、過去の相談例等も載せて丁寧な情報発信がされていると思います。</p> <p>・この1年間は、関内ホール工事に伴う一時移転という不自由な運営環境にあり、制約条件がある中で、青少年育成に関してできる限りの機能を維持する努力が払われてきました。</p> <p>・「発達障がい理解」や「ホワイトボードミーティング」など、専門的なテーマや新たな視点から研修が実施され、発達障がいのテーマには多くの参加者を得ています。さらに、「横浜子ども・青少年に関わる活動関係者の大交流会」を開催し、課題や情報の共有化、団体間のネットワーク構築を行うなど、青少年育成に資する多様な事業が展開されています。</p> <p>・相談件数について、目標の年間120件に対し、平成28年度、29年度ともに半数以下にとどまっています。また、事例集の発行についても、相談内容の分析中であり、発行と有効活用は指定管理期間後半の課題となっているなど、相談・情報提供業務に関して実績が伸びていないことについては、検討課題となっています。</p>			

<p>「ボーイスカウト横浜みなと地区協議会」など</p> <p><b>&lt;相談・情報の提供&gt;</b></p> <p>①「一次相談窓口の開設」 個別相談や地域活動・イベント企画などの相談</p> <p>②「情報コーナーの運営」 青少年育成に関する書籍、他団体の講座・研修・助成金情報など</p> <p><b>&lt;会議室等の貸出&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人・団体の活動を支援するための場を提供</li> <li>・ホームページでの空き室情報の発信</li> <li>・部屋の活用方法などの提案や相談を実施</li> </ul> <p><b>&lt;その他、青少年育成に資する事業&gt;</b></p> <p>「馬車道カレッジ」「ユース・チャレンジ」など青少年が直接参加できるイベントを実施</p> <p><b>&lt;地域課題や地域貢献に関する事業&gt;</b></p> <p>中区の寄り添い型支援事業の活動支援や市民局主催「子どもアドベンチャー」に町内会連合会と協働参加</p> <p>イ：指定管理事業を補完し、施設の効果を更に高めるため、法人のネットワークやノウハウを活用した青少年活動の支援を行いました。</p> <p><b>&lt;市民が利用・参加できる事業&gt;</b></p> <p>①幅広い層に役立つ講座研修 「コーチング研修」「リーダー研修」「デジカメ講座」など地域活動を支援する研修を実施</p> <p>②活動の支援や施設利用団体との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イベント物品（着ぐるみ）などの貸出</li> <li>・市民や近隣の社会人を対象とした趣味の講座</li> </ul> <p><b>&lt;シンクタンク機能としての事業&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学生による地域での居場所づくりの活動コーディネート</li> <li>・調査研究活動と研究事例集の発行に向けた検証</li> <li>・社会教育学会等での研究事例の発表と情報収集</li> </ul>	
--	--

<p><b>【今後予定している取組等】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 育成センターの講座研修をモデルとした研修を他団体等が実施するなど、市域での人材育成に寄与しています。</li> <li>2 研修内容が固定化傾向にあることから、他団体等が実施する講座研修に関する情報収集を行うとともに、これまでの成果を分析し、現代の青少年課題に対応した研修内容を展開します。</li> <li>3 運営再開後は、従来にも増して日常的に青少年指導者・育成者が立ち寄れる場を提供します。</li> </ol>	<p><b>【改善に向けた提案・意見】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・従来のユースコーディネーター研修と、認定制度に向けたユースワーカー研修が錯綜し、人材育成の仕組みがわかりづらくなっている面があります。例えば、ユースコーディネーター研修に一本化し、基本的な知識やスキルの習得だけを目指すレベルの研修と、ステップアップを図り認定を目指す研修に難易度を区分して実施することなどは考えられないでしょうか。</li> <li>ユースワーカー研修のアンケート結果を見ると、「横浜で認定コースがあったら受講したい」との回答が多いことから、慎重さは要するものの、遅くない時期に認定制度を発足させることが望まれます。</li> <li>・一次相談対応は、職員およびコーディネーターによって行われていますが、育成センター窓口での対応範囲と対応方法、専門機関へのつなぎとフォローアップといった全体の組み立てを整理して、相談対応者全員での共有化を図り、相談者の満足度を向上させ、相談件数のアップにつなげていくことが期待されます。また、相談員のスキルアップのための研修やSV研修等を丁寧に行うことを期待します。さらには、広報の方法にも創意工夫が望まれます。</li> <li>・相談事例集は、有効に活用されるものとなるよう、連携先である大学や研究機関等の専門的な視点に加え、青少年育成団体や教育機関等の現場の視点など、多様な視点からの意見をもらいながら、項目の整理や編集方法などを検討していく必要があると考えられます。</li> <li>・現状では、ユースコーディネーター研修など青少年指導者・育成者の支援が重要な役割になっているようですが、これからは地域課題や地域貢献に関する事業、シンクタンク機能としての事業に力点を置き、その結果を研修や団体支援、相談事業等につなげていくことが重要になると考えます。</li> <li>・青少年指導者・育成者の支援と共に、青少年自らが学び、ネットワークを形成していけるような事業も必要なのではないでしょうか。特に高校生の地域参画や大学生のリーダー養成は、次世代につなぐ活動のステップになり、担い手育成につながります。</li> </ul>
---	--

(3) 利用者サービスの向上について (様式 11)

評価項目・評価基準		指定管理者記入欄			選定評価委員会記入欄										
		評価 (A・B・C)			評価 (A・B・C)										
ア	利用者サービス向上のための取り組みについて	A	Ⓑ	C	A	Ⓑ	C								
	利用しやすい工夫や館内サービスの向上、利用者ニーズへの対応が図られている														
イ	広報活動・利用促進について	Ⓐ	B	C	A	Ⓑ	C								
	広報活動・利用促進に取り組んでいる														
指定管理者記入欄				選定評価委員会記入欄											
<p>【評価の根拠】</p> <p>ア：研修室や機材、印刷機、着ぐるみなどの貸出を行うことで、地域の青少年活動を支援しました。また、WEBを活用した情報提供やロッカーの設置、コーヒーポットサービスなど新たなサービスを提供することで、利用しやすい施設づくりに取り組みました。また、利用報告書やヒアリングによる利用ニーズの把握のほかに、年1回利用登録者を対象にアンケート調査を行い、利用満足度等の把握に努めています。</p> <table border="1" data-bbox="264 1115 778 1205"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>満足度</td> <td>88%</td> <td>90.4%</td> <td>91.2%</td> </tr> </tbody> </table> <p>イ：関内ホールの工事に伴う一時移転先の利用を促進するため、利用登録者および近隣の団体や施設、企業にパンフレットのDMを送付しました。また、職員が近隣の商業ビルに向いてパンフレットのポスティングを行いました。</p>				年度	27年度	28年度	29年度	満足度	88%	90.4%	91.2%	<p>【現状の評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関内ホールでの運営再開後は、新たに設置した交流スペースの活用により、利用者の利便性を高めるための環境整備や、活発な交流につながるような働きかけを期待します。</li> <li>・一部の固定的なスペース利用者によって、青少年育成に関わる団体の利用に支障が生じていた面もあり、運営再開後は、改めて育成センターが担う役割に沿った団体などが、公平・公正に利用できる環境の整備に努めてください。</li> <li>・利用者アンケート調査から利用満足度が年々上がっていることがわかります。利用しやすい施設づくりや利用者ニーズの把握、利用満足度の把握を的確に行っており、利用満足度91.2%は評価できます。</li> </ul>			
年度	27年度	28年度	29年度												
満足度	88%	90.4%	91.2%												

<p><b>【今後予定している取組等】</b></p> <p>1 運営再開後は、法人事務所の空きスペースを利用者の交流スペースに転換し、職員が利用者同士の新たなつながりや事業連携をコーディネートします。併せて、Wi-Fi を設置し利便性の向上を図ります。</p> <p>2 関内ホールでの運営再開に向けて、利用促進のパンフレットを作成するほか、相談窓口のチラシを作成するなど利用の促進に努めます。また、ボランティア情報サイト「アクティボ」やSNSなども活用して広報の拡充に取り組みます。</p>	<p><b>【改善に向けた意見】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・商店などが新装開店時は新たな顧客開拓の好機であるように、育成センターも運営再開後の広報においては、「一部レイアウトも変更し、新たなスタートを切った」という心機一転のイメージを打ち出し、この機会に利用してみようという動機付けを図ることが望まれます。</li> <li>・相談件数の増大に向けては、単に相談が出来るということを広報するだけではなく、一次対応の窓口として行っていることと、その先には専門機関とのネットワークがあり、これらにつなげる機能もあるということを具体的に打ち出していく必要があると考えられます。具体的事例を取り上げ、当相談窓口を通じて、どのようなプロセスで課題解決に至ったかなどを例示することでも、相談の具体的なイメージが湧きやすくなると思われま</li> <li>す。</li> <li>・機材や着ぐるみ等の貸し出し、ロッカーやコーヒポットの設置などは、直接利用者にサービスを届けるものですが、新たに交流スペースやWi-Fi を設置することで、青少年が居場所的に利用しやすい環境整備につながります。さらには、SNS やLINE、フェイスブック等若者が利用しやすい広報媒体での情報受発信の充実が求められます。</li> <li>・新たに設置する交流スペースは、来館者の目に触れやすく敷居の低いオープンな場という特性を活かし、このスペースで研修やワークショップ、気軽な集いを開催することで、利用者層や利用者数の拡大につなげていくことが望まれます。また、交流スペースの環境づくりとして、小中高校生参加型で壁のペイントを行うことなども、子ども達の体験の機会提供や利用者層の拡大につながります。ペイントにあたって、企業から材料の提供などの協賛が得られれば、地域内企業における青少年育成への理解促進といった効果も期待できるのではないのでしょうか。</li> </ul>
---	--

(4) 地域や他機関等との連携・協働について (様式 12)

評価項目・評価基準		指定管理者記入欄			選定評価委員会記入欄		
		評価 (A・B・C)			評価 (A・B・C)		
市域の学校、青少年関係団体や企業等との連携・協働について	市域の学校、青少年関係団体や企業等との連携が図られている	A	B	C	A	B	C
	※連携を図るだけでなく、学校・青少年団体・企業間の連携促進の取り組みを行っている場合は、その内容についても記載してください。						
指定管理者記入欄				選定評価委員会記入欄			
<p><b>【評価の根拠】</b></p> <p><b>&lt;講座研修における連携・協働&gt;</b>                      区社協等と連携して講座研修の情報発信を行うことで、子ども食堂や学習支援といった福祉関係者が参加するなど、お互いの分野の人材育成を図っています。</p> <p><b>&lt;青少年団体との連携・協働&gt;</b>                      横浜少年五団体と連携して五団体の活動支援を行うとともに、次世代リーダー育成の研修等を協働で実施しています。また、ボーイスカウトのスキルを活かした「救急法講習会」の実施など団体の人材を活かした協働事業を実施しています。</p> <p><b>&lt;行政や関係機関との連携・協働&gt;</b>                      相談等で寄せられた不登校や引きこもりなどの課題に対して、青少年相談センターや児童相談所、教育委員会、県警少年相談保護センターなどと連携を図り、課題解決に向けた取り組みを行っています。</p> また、市民局および町内会連合会との協働事業「子どもアドベンチャー」を通じて、青少年の自治会活動への関心を高める取り組みを行っています。				<p><b>【現状の評価】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・青少年関係団体、区社協等、行政や関係機関との連携・協働が図られています。市域の学校や民間企業との連携・協働については、今後の展開を見守りたい。</li> <li>・育成センターを中心に地域や他機関との連携、協働に力を注ぎ、年々充実してきている様子がうかがえます。さらに幅広い分野の団体等との連携、協働を目指していくことを期待します。</li> <li>・指定管理者である「よこはまユース」のネットワークが有効に活かされています。</li> <li>・青少年関係団体との連携による事業や、横浜市、神奈川県等の関係機関との連携の下での青少年に関する課題解決などが図られており、多様な連携先との関係が構築されています。</li> </ul>			

<p><b>【今後予定している取組等】</b></p> <p>1 こども青少年局と連携して、寄り添い型支援事業や、青少年地域活動拠点事業に関わる各事業の従事者との共通研修を計画しています。</p> <p>2 民間企業と連携して、青少年育成団体の資金調達や情報発信に関する講座研修を企画し、企業の社会貢献を推進するとともに、企業と青少年団体がつながる展開を模索します。</p>	<p><b>【改善に向けた提案・意見】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・横浜市に提案中の「青少年事業に関わる各事業の従事者との共通研修」の計画を有効な形で実現に導き、育成センターが青少年に関わる課題解決や、青少年の自発的な力の導き出しと醸成などにおける、牽引役となっていくことが期待されます。</li> <li>・学校教育では「チーム学校」が提唱され、地域の団体・専門機関を含めチームとしてとらえ始めているので、学校・教育委員会なども積極的につながりを持ち、情報を共有していくことが望まれます。</li> <li>・多様な連携先とのネットワークが広がっていく中で、どこまでを育成センターが行い、どこから先を他団体や他機関につなぐのかの整理をし、青少年育成団体としての専門性が発揮できるテーマに力点を置いていくことが必要と思われまます。例えば、団体運営に関する資金調達や情報発信などについては、これら支援を専門とする中間支援団体が市内にも複数存在します。育成センター自らの事業領域を広げることと、ネットワークの中で他団体や他機関の力を借りて解決できることを見極め、事業拡大による効率性の低下が生じぬよう留意してください。</li> <li>・横浜市の青少年団体は、横浜少年五団体を中心に活動を展開していますが、地域との関わりが弱くなっており、中高生や大学生などの青少年の参画も年々少なくなっています。また、自治会や連合町内会から選出されている青少年指導員が行っている取組は、小学生等を対象とした宿泊キャンプやレクリエーション等のイベント開催が中心となっています。一方で、最近では自治会組織の中に、中高生以上の青少年を対象とする青少年部を立ち上げるケースが増えており、地域づくりや活性化を担う部会として自立的に活動するグループに成長しているものもあります。これからは、地域の青少年を対象とした課題解決への取組を青少年指導員と一緒に取り組むところも出てくる可能性があり、そうした地域活動の支援を視野に入れていく必要があると思います。</li> </ul>
---	--

## 4. 管理運営

### (1) 運営体制に関する基本的な考え方について (様式 13)

評価項目・評価基準		指定管理者記入欄			選定評価委員会記入欄		
		評価 (A・B・C)			評価 (A・B・C)		
ア	効率的かつ安定的な運営体制の確立	A	Ⓑ	C	A	Ⓑ	C
	効率的かつ安定的な運営を維持する体制が確立している						
イ	人材育成について	Ⓐ	B	C	Ⓐ	B	C
	職員の育成、資質向上に取り組んでいる						
ウ	危機管理への対応について	Ⓐ	B	C	Ⓐ	B	C
	安全管理、危機管理への対応、事故防止に向けた対策を講じている						
エ	個人情報保護に対する取組みについて	A	Ⓑ	C	A	Ⓑ	C
	個人情報保護に取り組んでいる						
指定管理者記入欄				選定評価委員会記入欄			
<p>【評価の根拠】</p> <p>ア：庶務・経理・労務は法人本部で管理し、貸出業務はコーディネーターに一元化するなど職員が事業実施・施設管理に集中できるよう、運営の工夫を行っています。</p> <p>イ：職員は、横浜市青少年相談センターが主催するメンタルヘルスなどの専門研修に参加するほか、企画研修、チラシデザイン、いじめ対応など自己啓発に取り組む資質向上に努めています。また、施設の維持管理に関する研修にも積極的に参加し施設の安全管理における意識を高めています。 コーディネーターに関しては、相談や利用に関するケース会議を毎月1回実施しています。</p> <p>ウ：利用者を含めた避難訓練を年2回実施するほか、AED研修を施設従事者全員が受講しています。また、「帰宅困難者一時滞在施設」として、飲料水、毛布等の備蓄品を保管管理するとともに、職員は「中区帰宅困難者対策訓練」や「MFA応急手当講習会」にも参加しています。</p>				<p>【現状の評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>法人本部との連携によって、効率的かつ安定的な運営を維持する体制が確立しています。</li> <li>提案書に沿った人員配置が行われ、職員の育成、資質の向上にも適切に取り組んでいます。</li> <li>効率的・安定的な運営体制に取り組む一方、職員の資質向上をはかる幅広い専門研修にも取り組み、企画力、支援力、コーディネータ力などが備わった職員を配置できている点は評価できます。</li> <li>資質向上のために職員が様々な研修に参加していることが伺えますが、コーディネーターも業務拡大がみられるので、職員同様に資質向上のための研修等へ積極的に参加ができるようにしていただきたい。また、相談件数が目標未達となっていることなどもあり、窓口対応機能の強化充実などが望まれます。</li> <li>危機管理への対応については、マニュアル等が整備され、訓練が実施されています。</li> <li>個人情報保護は、法人全体での管理方法が適用されていますが、現場レベルでの運用において、より一層厳格化を図っていくことが望まれます。</li> </ul>			

<p>エ：個人情報の管理は、保管場所の施錠のほか研修終了後に適切に破棄するなど、個人情報保護を徹底しています。また職員およびスタッフは個人情報に関する研修を必須とし、個人情報に関する意識向上に努めています。</p> <p><b>【参考】職員が参加した研修一覧</b></p> <p>&lt;職員の資質向上&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもファンドセミナー「貧困の実態」「居場所」</li> <li>・上智大学教育イノベーションフォーラム</li> <li>・第17期ユースワーカー養成講習</li> <li>・相談センターメンタルヘルス後期コース</li> <li>・よこはま東部地域若者支援連絡会</li> <li>・施設が活きる！人が集まる！効果的な広報</li> <li>・伝わるチラシの作り方</li> <li>・マージナルパーソンを防ぐ学習支援の役割</li> <li>・「子ども支援をはじめよう」講座</li> <li>・人権研修</li> </ul> <p>&lt;施設維持管理&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水まわり器具のメンテナンスセミナー</li> <li>・定期監査等に関する研修会</li> <li>・公共建築物の保全に関する研修「シックハウス」他</li> <li>・施設管理者を対象とした出前研修「施設点検」</li> </ul> <p>&lt;安全管理&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中区一時帰宅困難者訓練</li> <li>・MFA応急手当講習応急手当研修会</li> <li>・個人情報保護研修</li> </ul>	
<p><b>【今後予定している取組等】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 引き続き職員及びスタッフの資質向上に努め、利用者サービスや安心して利用できる施設づくりに取り組みます。</li> <li>2 危機管理に関しては、関内ホールでの運営再開に備えて、関内ホール管理運営者とも連携を図り、新たに緊急時対応マニュアルを作成し、職員やスタッフに徹底します。</li> <li>3 個人情報保護に関しては、定期的に運用状況や体制を確認し、改善を図っていきます。</li> </ol>	<p><b>【改善に向けた提案・意見】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な研修に参加した後、職員同士で情報を共有し、研修成果を育成センターの運営にいかされることを望みます。</li> <li>・関内ホールは繁華街に位置するので、地震や不審者の侵入等緊急時に職員が適切な対応ができるよう日頃から訓練をしていただきたい。</li> <li>・育成センターでは、青少年を中心とした多くの利用者の個人情報を扱っており、近年、情報流出の大きな事故の発生が社会問題となっていることから、より一層の慎重な対応が必要です。</li> </ul>

(2) 収支計画について (様式 14)

評価項目・評価基準		指定管理者記入欄			選定評価委員会記入欄																						
		評価 (A・B・C)			評価 (A・B・C)																						
ア	収支計画と無駄な支出の抑制策について	Ⓐ	B	C	Ⓐ	B	C																				
	無駄な支出の抑制に努め、計画通りに収支が推移している																										
イ	財務経営状況について	Ⓐ	B	C	Ⓐ	B	C																				
	施設を継続的、安定的に運営するための財政的基盤が整っている																										
指定管理者記入欄				選定評価委員会記入欄																							
<p>【評価の根拠】</p> <p>&lt;収入&gt; 平成 27 年と比較して平成 28 年度利用料金収入は減収となっていますが、目標額に達することができました。事業収入は、研修参加費単価の見直しとプリントルームの機器を刷新したことで大幅な増額となりました。</p> <p>&lt;支出&gt; プリントルームの機器の刷新による契約内容の変更や消耗品類の経費削減により平成 27 年度と比較して支出は減少しています。</p> <p>&lt;財務状況&gt; 当法人は、平成 29 年度決算において、基本財産 333,780 千円の他に、一般正味財産 218,835 千円を有しており、引き続き安定した運営を継続できるだけの財政的基盤が整っています。</p> <p>【参考】平成 27、28、29 年度決算額 (千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>27 年度</th> <th>28 年度</th> <th>29 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>利用料金</td> <td>2,314</td> <td>2,260</td> <td>1,551</td> </tr> <tr> <td>事業収入</td> <td>937</td> <td>1,307</td> <td>1,080</td> </tr> <tr> <td>維持管理費</td> <td>14,831</td> <td>13,935</td> <td>10,031</td> </tr> <tr> <td>事業経費</td> <td>7,903</td> <td>7,966</td> <td>6,774</td> </tr> </tbody> </table>					27 年度	28 年度	29 年度	利用料金	2,314	2,260	1,551	事業収入	937	1,307	1,080	維持管理費	14,831	13,935	10,031	事業経費	7,903	7,966	6,774	<p>【現状の評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成 28 年度の収支はほぼ予算に即して執行された結果、収支差額はゼロとなっています。平成 29 年度の収支については、関内ホールの工事に伴う一時移転期間があり、収入額が予算を下回ったものの、支出も抑制されたことから、収支差額は黒字が確保されています。</li> <li>研修参加費の見直しや印刷等機器の刷新による事業収入増、無駄な支出抑制などにより、収支状況は目標を達成できている点は評価できます。</li> <li>収支の健全化を図るため、特に支出の抑制に努めていますが、利用者へのサービスの維持は不可欠な要件です。一時移転によって利用者が離れたことから、今後、その回復が求められます。その際には、新規利用者の獲得が鍵となります。「ピンチはチャンス」と考え、利用者の拡大に向けた新たな展開を期待します。</li> <li>指定管理者である法人の決算では基本財産・正味財産（自己資本）が確保・維持されており、財務基盤は安定していると考えられる。</li> </ul>			
	27 年度	28 年度	29 年度																								
利用料金	2,314	2,260	1,551																								
事業収入	937	1,307	1,080																								
維持管理費	14,831	13,935	10,031																								
事業経費	7,903	7,966	6,774																								
<p>【今後予定している取組等】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>関内ホールの工事に伴う一時移転により、これまでの利用者が離れています。利用回復を図るとともに、貸室の多様な活用方法を提案するなど、新規利用者の獲得を進めていきます。</li> <li>プリントルームの利用促進による事業収入の増加を図ります。</li> <li>引き続き、利用者サービスは保ちつつ、無駄を省き支出の抑制に努めます。</li> </ol>				<p>【改善に向けた提案・意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一時移転により離れていた利用者、利用団体の利用回復のための情報発信と、新規利用者、利用団体の利用促進のための情報発信に努められることを期待します。</li> <li>自主事業においては、支出が収入を大幅に超えていることから、収支の改善の検討が望まれます。</li> <li>費用対効果の高い媒体を通じた広報などによって、利用者数の確保、利用料金収入の増大を図っていくことを期待します。</li> </ul>																							

(3) 施設の維持管理について (様式 15)

評価項目・評価基準		指定管理者記入欄			選定評価委員会記入欄		
		評価 (A・B・C)			評価 (A・B・C)		
施設の維持管理について		Ⓐ	B	C	Ⓐ	B	C
施設の保守管理、維持管理に取り組んでいる							
指定管理者記入欄		選定評価委員会記入欄					
<p><b>【評価の根拠】</b></p> <p>1 点検マニュアルに基づき日常及び定期点検を行うことで、長寿命化に努めています。</p> <p>2 故障や破損が発生した際は、速やかに原状回復を図るとともに、可能な限り職員やスタッフが修繕することで経費削減に努めています。</p> <p>3 毎月1回開催するコーディネーター会議の前後に貸室のイスやテーブル、付帯設備の簡易点検及び簡易清掃を行いつついます。</p> <p>4 毎朝貸出備品のチェックを行い、利用団体の活動に支障がないよう努めています。また、貸室利用後には、職員が巡回して室内灯やエアコンの節電など環境へ配慮した行動を意識しています。</p> <p>5 スタジオ機材や貸出PC、プロジェクターなど壊れやすい機器に関しては、使用前に利用方法や注意点を伝えることで故障の減少に努めています。</p> <p>6. 利用者にはゴミの持ち帰りの徹底を図り「ヨコハマ3R夢プラン」を推進しています。</p>		<p><b>【現状の評価】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関内ホールの指定管理者との連携の下で、日常の管理や定期的なメンテナンスが適切に行われています。</li> <li>・一時移転先の施設においても、同様に適切な施設の保守管理、維持管理に努めています。</li> <li>・故障や破損の発生時に、可能な限り職員やスタッフが修繕できるよう努めているとすることで、このような姿勢は職員一人ひとりが施設の維持管理に対する責任や意識を持てることにつながると思います。</li> <li>・定期点検による長寿命化、ついでに点検・清掃、貸出し備品のこまめなチェック等の工夫を積み重ね、習慣化する努力は評価できます。</li> </ul>					
<p><b>【今後予定している取組等】</b></p> <p>1 引き続き、職員による自主点検や清掃による環境へ配慮して行動するとともに、利用者にも節電やゴミの持ち帰りを促し、環境保全の推進を図っていきます。</p> <p>2 横浜市が主催する「公共建築物の保全に関する研修」に積極的に参加し職員の維持管理の能力の向上に努めます。</p>		<p><b>【改善に向けた提案、意見】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の老朽化が進行することから、横浜市とも適時適切に調整を図り、引続き安全・安心の確保に努めていくことが望まれます。</li> <li>・近年、大規模な自然災害により想定外の被害の発生が見られ、また育成センターは地下に立地することから、大規模な地震や台風等の風雨災害の際に危険な箇所はないか、慎重に再確認するとともに、子どもや高齢者を含む利用者の避難誘導體制なども職員間（時給職員も含め）で確認する必要があると考えられます。</li> </ul>					

(4) モニタリングの実施について (様式 16)

評価項目・評価基準		指定管理者記入欄			選定評価委員会記入欄		
		評価 (A・B・C)			評価 (A・B・C)		
<b>モニタリングの実施について</b> 事業評価及びPDCA マネジメント等により、事業改善につなげている		Ⓐ	B	C	A	Ⓑ	C
指定管理者記入欄		選定評価委員会記入欄					
<b>【評価の根拠】</b> 1 法人独自の事業評価システムに基づき、人数等の数値や利用者及び参加者アンケートの意見を反映させた、事業評価を実施しています。 2 利用者アンケートを、利用者登録者全員に配布し、アンケート結果をもとに職員会議で情報や問題意識を共有し、運営に反映しています。 3 講座研修の参加者には、受講者カードを配布して研修ニーズや地域活動の課題把握に努め、次年度の研修テーマの選定に活用しています。 4 「横浜子ども・青少年に関わる活動関係者の大交流会」や「ユースシンポジウム」の情報交換において地域情報や課題の収集を行っています。 また、横浜少年五団体連絡会に参加し、地域における団体活動の様子や課題の情報収集も行うとともに、得た情報をもとに、活動支援や施設運営の取り組みに反映しています。		<b>【現状の評価】</b> ・法人独自の事業評価システムのほか、外部からの意見等の収集については、利用者アンケートや受講者カード、交流会等での意見交換などを通じて行われ、評価やニーズを把握するための努力をしていると感じました。 ・外部の専門家を含む委員会といった組織による外部評価については、法人全体での導入は検討が進められているが、育成センター単独での導入は未定となっています。 ・利用者アンケートを反映した事業評価の実施や、施設の運営に反映する取組が実現しています。また、研修のニーズや地域活動の課題把握にも努めています。こうしたモニタリングを、今後とも広汎にかつ持続的に実施し、事業の改善に確実に繋げてください。					
<b>【今後予定している取組等】</b> 1 引き続き、利用団体や講座研修参加者へのアンケート調査やヒアリングを行い、ニーズ把握を行うとともに、他施設が行う講座研修や利用サービスも調査し利用者へより良い運営が提供できるよう努めていきます。 2 積極的に地域で行われる連絡会や情報交換会に出席し、地域情報の収集に努めていきます。		<b>【改善に向けた提案、意見】</b> ・新たな利用者の開拓や相談件数の増大に向けては、多角的な視点から事業結果の検証や対策を行う必要があることから、育成センターに関する委員会等の組織の設置も検討していくことが望まれます。 ・情報収集・コーディネートのプロセスを可視化し、広く発信することで、新しい視点での意見や新規参画が期待できると思います。 ・日頃から、利用者アンケートやヒアリングによるモニタリングをこまめに実施している点は評価できますが、法人独自の事業評価システムや外部の専門家を含めた専門委員会などについてはまだどうなるかわからず、育成センター単独か法人全体に関わる仕組みを問わず、早期に結論を出して試験的でもいいから一歩を踏み出してほしい					

	<p>と思います。</p>
--	---------------